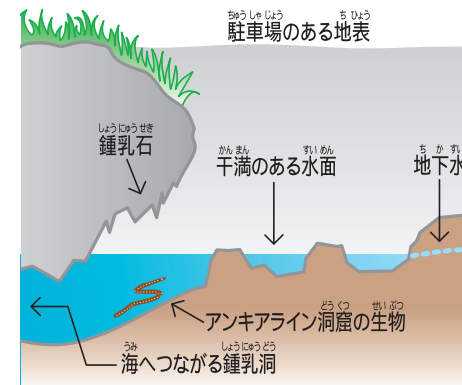


陸の中の海【ウンブキ】

～ 地下にある汽水、アンキアライン環境の海底洞窟 ～



この鍾乳洞は方言でウンブキと呼ばれ、かつてサンゴ礁が地上に隆起して鍾乳洞ができ、再び海に没した海底洞窟です。およそ400m先で海につながり、干満の影響で水位が変化します。海水と地下水（真水）が混じり合うアンキアライン洞窟で、発見例が少なく、和名もついていない魚やエビが生息しています。海岸の岩場～山地に分布する植物が同居しており、森を好む野鳥、アカヒゲも生息しています。

どうくつ せいぶつ 洞窟にすむ生物

※学名はありますが和名はまだありません。主に夜、活動します。

いづなご ぞく いっしゅ イワアナゴ属の一種



日本で初めて、ここで発見された、とても珍しい魚類。アナゴよりウツボに近い。体長50センチ。

かわアナゴ ぞく いっしゅ カワアナゴ属の一種



2005年、沖縄県・宮古島の洞窟で最初に発見された、新種の魚類。体長20センチ。

りゅうぐうもえび ぞく いっしゅ リュウグウモエビ属の一種

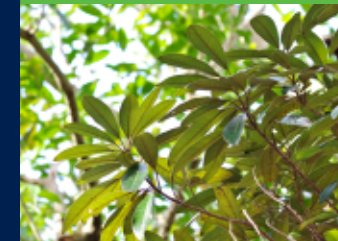


ここが国内で3番目の発見となる、洞窟の珍しいエビ。体長10センチ。

お問い合わせ 天城町役場 商工水産観光課 TEL 85-5382 / 85-5149

しょくぶつ 植物

アカテツ



亜熱帯、熱帯に広く分布する常緑樹。葉の裏側には赤茶色の毛が生えている。

オオシマコバンノキ



トカラ列島以南の、海岸の石灰岩上や集落周辺に自生する低木。

オオバギ



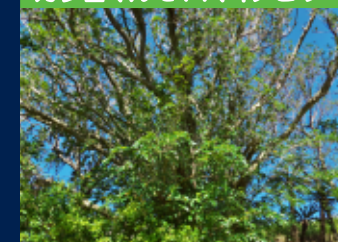
平地や山地の伐採地、林縁に自生し、他の樹木より早く成長する常緑樹。

オニヤブソテツ



北海道南部～沖縄、台湾、ベトナム、インドなどの海岸付近の岩場に多い、常緑のシダ。

ガジュマルとハマヌビワ



ガジュマルの根元にハマヌビワが着生。双方とも、とりついた植物を枯らせる植物。

クスノハガシワ



トカラ列島（宝島）以南～オーストラリアまで広く分布し、石灰岩地帯に多い常緑樹。

サクララン



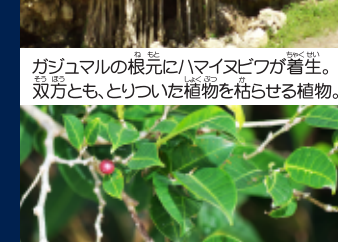
南西諸島など亜熱帯の谷あいで見られ、観賞用に栽培されたものはホヤともいう。

シマグワ



海岸から低山、集落周辺に自生する雌雄異株の樹木で、甘い果実は食用になる。

センダン



ハマヌビワの葉はガジュマルより大きく、先がとがっている。気根は無いことが多い。

ハマヌビワ



西日本以南の暖かな海岸の落葉樹。葉や材木として利用される。

ホウビカンジュ



トカラ列島以南、山地の樹幹や岩に自生。名の由来は、伝説の生物、鳳の尾から。

どうぶつ 動物

アカヒゲ



国の天然記念物。薄暗い森を好んで住み、オスは美しい声でさえずる。スズメくらい。

アマミシジュウカラ



ネクタイのような胸の黒い帯が特徴。徳之島、奄美大島に生息。スズメくらい。

アマミヒヨドリ



トカラ列島と奄美群島に分布。夜、細い枝などで丸くなって寝る。スズメより大。

オカガニ（夜行性）



亜熱帯、熱帯に分布。地面に穴を掘って住み、初夏に産卵のため海へ下る。

看板サイズ1,500×900 / 表示部分（紺色）1,450×850